個人の市場価値の向上と生涯成長を支える

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.13

2021 年 01 月

□ 岡村の最近の注目ニュース　□ ビジネス予備校近況リポート　□ B-EAT 会活動報告　□ What's up?

いつ始めても
遅すぎることはない。

2021/01

広い世界を見よ！
世間の常識を疑え！

**コロナが長期化する中、重苦しい気持ちの方も、
ピンチはチャンスと張り切っている方もいるでしょう。
どちらにせよ、健康第一、自身の限界を越えないよう十分ご注意ください。**

皆さん、いかなる心持で新年をお迎えですか？

危機の記憶と学びを言語化して、刻印する。

自身のビジネス人生を振り返った時に、形こそ変われど、常に危機と向き合ってきた感覚があります。
９０年代初頭の日本の不動産バブル崩壊時には、若手の貸付先フォロー担当として、市場暴落を目の当たりにしました。日本人の多くは月に１０％もあがる国内不動産価格に疑問を感じず、海外が冷静に指摘していた通りのリスクが顕在化したのです。その時から“**広い世界から見よ！世間の常識を疑え！**”が指針となりました。９７年ＬＴＣＭショックは２日間で２０円の劇的な円高を惹起しました。為替課長として、数兆円相当の自社外貨建て資産がどれだけ棄損されるか、考えただけで胃が痛くなりました。でも“プロはうろたえない・・危機時こそ突き抜けた冷静さ”と自らに発破をかけ、優秀な部下と共に相場と向き合いました。その後も、米国法人社長として同時多発テロ、巨額損失を計上した金融グループの新任日本代表としてリーマンショック等々、危機の連続でした。その都度、必死にもがきあがいたからこそ、心臓の鼓動まで含めて今も鮮明に記憶しています。
ただ、昔の仲間と雑談していると、経験は既にセピア色だとおっしゃる方もいます。**その差は、“言語化”から生まれるのではないか？**と考えています。元々危機のたびにノートに感情や学びを走り書きし、後進に語ったりしてきました。
いまＥＡＴ現役生に、**「コロナショックから何を抽象化するか？ワンワードで示してみよう」**と働きかけるのは、**危機の記憶と学びを刻印して欲しいから**です。因みに私は、**“日々是好日”、“本来無一物”**などの言葉が頭をめぐっています。そんな思いから、通学の許されぬ大学生に向けて「次世代キャリアとお金の考え方講座」を、ＥＡＴご講師や卒業生と共にボランティアで始めたのです。教えながら教わっているのはいつも通り・・ありがたいことです。**危機から何を学びどう行動するのか、いつも考えています。**
今回ご多忙のなかご寄稿くださった大西康之氏（元日経新聞社編集委員、現フリー･ジャーナリスト）は、生徒の皆さんはご承知の通り、徹底した取材と言語化の力で、人を魅了し続けてきた方です。**『起業の天才！　江副浩正８兆円リクルートを作った男　ジェフ・ベゾスはこのヤバい日本人の「部下」だった』**が、１月２９日に東洋経済新報社より発売されます。
皆さんが同本からいかなるワンワードを引き出すのか、今から楽しみです。

注) この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！

（EAT 代表　岡村 進）

寄稿

日本経済の成長は なぜ止まってしまったのか。

経済ジャーナリスト
大西　康之　氏

「あぶく銭」すら集まらないほど魅力がない日本市場？

昨年6月、米ネット大手5社「GAFAM（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン・ドット・コム、マイクロソフト）の株式時価総額の合計が560兆円に達し、日本の東京証券取引所一部の上場企業2170社の合計550兆円を上回った。現在の米国の株高も当時の日本と同様、異常なまでの金融緩和が生んだ過剰流動性の産物と見ることもできる。だがこの30年で米国の株価は10倍になったが、日経平均はまだ30年前の最高値に届いていない。「あぶく銭」すら集まらないほど魅力がない日本市場、と言えば言い過ぎだろうか。

こうした状況下、テレビ、新聞、雑誌でよく聞かれるのが「日本はもうダメだ」という短絡的な悲観論と「それでも日本は素晴らしい」という根拠のない楽観論だが、どちらも正しくないと思う。

私は1998年から2002年まで新聞社の特派員としてロンドンに赴任していた。当時の欧州経済は共通通貨「ユーロ」の誕生でユーフォリア（熱狂的陶酔感）に包まれていた。ユーロに参加しないイギリスもその影響でミニ・バブルに沸いていたが、皆が皆、酔っていた訳ではなかった。ロンドン・タクシーのドライバーはこう言った。

「今だけさ。景気なんて良くなれば、そのあとは悪くなるもんだ」

産業革命から200年余り、長い資本主義の歴史を持つ欧州の人々は、景気の循環を知っていた。ハプスブルグ家のオーストリア、大航海時代のスペイン、ポルトガル、産業革命後に七つの海を支配したイギリス。それぞれに栄華を極めた時代があったが、それが永続することはなかった。だが頂点から滑り落ちた後も、多くの人々は絶望を嘆くばかりではなく、その時々にできる営みを営々と続けてきた。その延長線上に欧州の今がある。

もし欧州各国が過去の栄光にしがみつき、そこで足を止めていたら、今の穏やかな暮らしはなかっただろう。頂点に返り咲くことはできなくても、今できる最大限の努力を積み重ねる。その先にようやく、成長と衰退が交差する「穏やかな均衡点」が訪れる。努力を怠れば衰退あるのみである。

日本が中国に抜かれ「世界第2位の経済大国」の座から滑り落ちてからかなりのすでにかなりの時間が経過した。我々日本人は30年前の失敗から何かを学び、今できることを最大限にやっているだろうか。

日本経済の成長はなぜ止まってしまったのか。再び成長を取り戻すために我々はどこへ向かうべきなのか。私なりの結論を『起業の天才！　江副浩正8兆円リクルートを作った男　ジェフ・ベゾスはこのヤバい日本人の「部下」だった』に記した。

東洋経済新報社より
2021年1月29日
発売予定
電子書籍も同時発売。

B-EAT　ビジネス予備校のOB/OGによる地域を超えた繋がり

第３回Ｂ－ＥＡＴ「『起業』をとことん考える」を実施

12月20日（日）12～17時の長丁場でしたが、現役大学生（起業家クラブ所属）を含む6名が参加しました。岡村先生による起業経験談、起業イメージの意見交換など、有意義な時間となりました。起業と言っても考えは多岐に亘ります。岡村先生の経験談や大学生を含めた幅広い年代の意見交換によって多くの気づきや考えが得られました。特に大学生の起業イメージには海外も視野に夢を感じました。非常に有意義かつ濃密な時間でした。

※文筆　B-EAT東京4期幹事　清古康之

What's up?

ヴ ティ フェン
VU THI HUYEN
EAT ビジネス予備校
福岡クラス（3期生）
福岡大学　経済学部
外国人研究生

コロナ禍はもうすぐ一年間経ちます。
全世界で色々な大変ことも起こりました。でも、そんな状況があるこそ、心の強さをさらに強くなったり、忘れたことを思い出されたり、自分にとって本当に大事なことを気づいたりしました。
そして、今日みんなはニューノーマルを向き合っているのを見て、今後も世界がどんどん変わっていくだろうかと思って、より良い自分を目指して学び続きたいです。

EAT 株式会社人財アジア
〒100-0005 東京都 千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
［TEL］03-6300-6460　［Mail］info@eat-star.asia

特別寄稿およびWhat's up?　に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。